

除草剤

オサキニ1キロ粒剤

イマゾスルフロン・ピリミノバックメチル・ブロモブチド粒剤

平成28年11月30日付けで以下の適用拡大が登録されました。

【変更内容】

- ・適用土壌および適用地帯を削除する。
- ・作物名「移植水稻」の適用雑草名「ヘラオモダカ（東北）」を「ヘラオモダカ」に変更する。
- ・作物名「移植水稻」の適用雑草名「ミズガヤツリ（北海道を除く）」を「ミズガヤツリ」に変更する。
- ・作物名「移植水稻」および「直播水稻」に適用雑草名「アオミドロ・藻類による表層はく離」を追加する。

【変更後】

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稻	水田一年生雑草 及び マツバイ ホトイ ヘラオモダカ ウリカ ミズガヤツリ ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類による 表層はく離	移植直後～ ルビエ3葉期 ただし、 移植後30日まで	1kg/10a	1回	湛水散布
		は種時			は種同時散布機 で施用
直播水稻	水田一年生雑草 及び マツバイ ホトイ ウリカ ミズガヤツリ ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類による 表層はく離	は種直後～ ルビエ3葉期 ただし、 収穫90日前まで			湛水散布、 ごく浅く湛水して散布 又は 無人ヘリコプターによる散布

イマゾスルフロン を含む農薬の総使用回数	ピリミノバックメチル を含む農薬の総使用回数	ブロモブチド を含む農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内

次頁へ続く

前頁より続く

使用上の注意事項の変更

【変更前】

- ・本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの3葉期までに時期を失しないように使用すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に使用するよう注意すること。
ホタルイは3葉期（北海道、東北は2葉期）まで、ウリカワは3葉期（北海道、東北、関東・東山・東海、近畿・中国・四国は2葉期、北陸は発生始期）まで、ヘラオモダカは2葉期まで、ミズガヤツリは3葉期（北陸、関東・東山・東海は2葉期）まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前から再生始期までが本剤の散布適期である。
- ・本剤を無人ヘリコプターによる散布に使用する場合は、次の注意を守ること。
 - ・散布は散布機種 of 散布基準に従って実施すること。
 - ・専用の粒剤散布装置によって湛水散布すること。
 - ・事前に薬剤の物理性に合わせて粒剤散布装置のメタリング開度を調整すること。
 - ・散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、当該水田周辺部への飛散防止のため散布装置のインペラの回転数を調整し、ほ場の端から5m離れた位置からほ場内に散布すること。
 - ・水源池、飲料水等に本剤が流入しないように十分注意すること。

【変更後】

- ・本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの3葉期までに時期を失しないように使用すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に使用するよう注意すること。
ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリは3葉期まで、ヘラオモダカは2葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前から再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までが本剤の散布適期である。
- ・本剤を無人ヘリコプターによる散布に使用する場合は、次の注意を守ること。
 - ・散布は散布機種 of 散布基準に従って実施すること。
 - ・専用の粒剤散布装置によって湛水散布すること。
 - ・事前に薬剤の物理性に合わせて粒剤散布装置のメタリング開度を調整すること。
 - ・散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、当該水田周辺部への飛散防止のため散布装置のインペラの回転数を調整し、ほ場の端から5m離れた位置からほ場内に散布すること。
 - ・水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意すること。

使用上の注意事項などについては、製品に添付されているラベルを参照のこと。

住友化学株式会社